

RESASを活用した政策立案ワークショップ

成果報告

令和4年11月2日（水）
政策立案ワークショップチーム

政策立案ワークショップとは

主催：内閣府地方創生推進室

- 地方公共団体の政策立案や既存施策の効果検証等を情報面から支援することを目的とした取組。
- 産業・観光・人口等の様々な分野で地方公共団体が抱えている課題に対して統計データ等を活用して、分析や政策立案の検討を行うもの。
- 大学教授やコンサルティング会社等の各分野の有識者を派遣し、RESAS等の各種データを用いた分析に関するアドバイスを行うとともに、地方公共団体職員や地域の関係団体の皆様などを交えたワークショップを開催し、その後の施策立案に繋げるもの。

政策立案ワークショップ参加者

●瑞浪市

商工課	渡邊 美月	
社会福祉課	近藤 群	
総務課	安藤 みちる	
都市計画課	本田 満久	
社会教育課	榊原 勝哉	(事務局)
市民課	木股 佳輝	企画政策課
企画政策課	森 佑太	都市計画課

●内閣府地方創生推進室デジタル田園都市国家構想実現会議事務局

●経済産業省中部経済産業局総務企画部企画調査課

●有識者（森ビル株式会社都市開発本部計画企画部 矢部 俊男氏）

●その他、オンラインで全国の経済産業局も参加

政策立案ワークショップの実施状況

目的	瑞浪駅周辺再開発の 有効性を高める施策の立案 。
検証の視点	① 現状把握：駅周辺再開発におけるニーズの特定とコンセプトの細分化を行う。 ② 施策の具体化：ニーズとコンセプトに基づき再開発計画をさらに有効なものとする施策を具体化する。 ③ 効果の測定：立案した施策が、効果的なものであるという認識を更に深め、今後の駅前再開発事業の関係者への根拠ある提案の一助とする。

	RESAS研修①	RESAS研修②分析編	第1回	第2回	第3回
時期	2022年4月27日	2022年5月31日	2022年6月28日	2022年9月1日	2022年10月4日
ゴール	・ RESASの操作方法の習得	・ RESASの活用した分析方法の習得	・ 瑞浪市の強みを再認識し、ニーズの特定とコンセプトの細分化を行う。	・ 第1回で導き出したニーズとコンセプトに基づき施策を具体化する。	・ 施策効果の分析。
取組内容	・ 瑞浪市人口の現状把握 ・ 瑞浪市の産業の特色 ・ 瑞浪市の観光における現状認識	・ 現状把握 (SWOT分析) ・ 問題点の設定 ・ 問題点に対する仮説及び仮説の構造化 ・ 分析評価 ・ 政策 (施策) 立案	・ アンケートやデータから読み取れるニーズの明確化。 ・ コンセプトの細分化。	・ 他市の事例研究 (茅野市) ・ 現地視察	・ 第1回、第2回の総括。 ・ 施策効果を分析し、有効性を確認する。
具体策	-	-	・ アンケート調査やデータから読み取れる瑞浪市の特徴を把握する。 ・ 瑞浪駅周辺再開発におけるニーズをデータに基づいて整理する。 (名古屋方面通勤者・学生・子育てママ・お年寄り) ・ 他市の事例や瑞浪市の特徴から、本事業で着目すべきニーズとコンセプトの細分化を議論する。	・ 第1回で導き出したニーズを満たすために再開発をどのような形で進めていくか、具体的な施策を検討する。 ・ 他市の事例研究から、本事業で実施する施策の進め方のヒントや課題点を見つけ出す。	・ 第1回で特定したニーズを定量的に把握し、施策実施によりニーズが定量的に増える見込みがあることを明らかにする。

政策立案ワークショップの様子

RESAS研修会（4月27日、5月31日）



政策立案ワークショップの様子

ワークショップ（6月28日 瑞浪市の現状について）



政策立案ワークショップの様子

ワークショップ（9月1日 茅野市視察、茅野市職員との意見交換）



政策立案ワークショップの様子

ワークショップ（10月4日 駅周辺まちづくりの政策立案）



RESAS等のデータを活用した政策立案

岐阜県瑞浪市
政策立案ワークショップチーム

瑞浪市のまちの現状

瑞浪市の概要

人口：36,323人 (R4.8.1時点)
 世帯：15,571世帯 (R4.8.1時点)
 面積：174.86km²



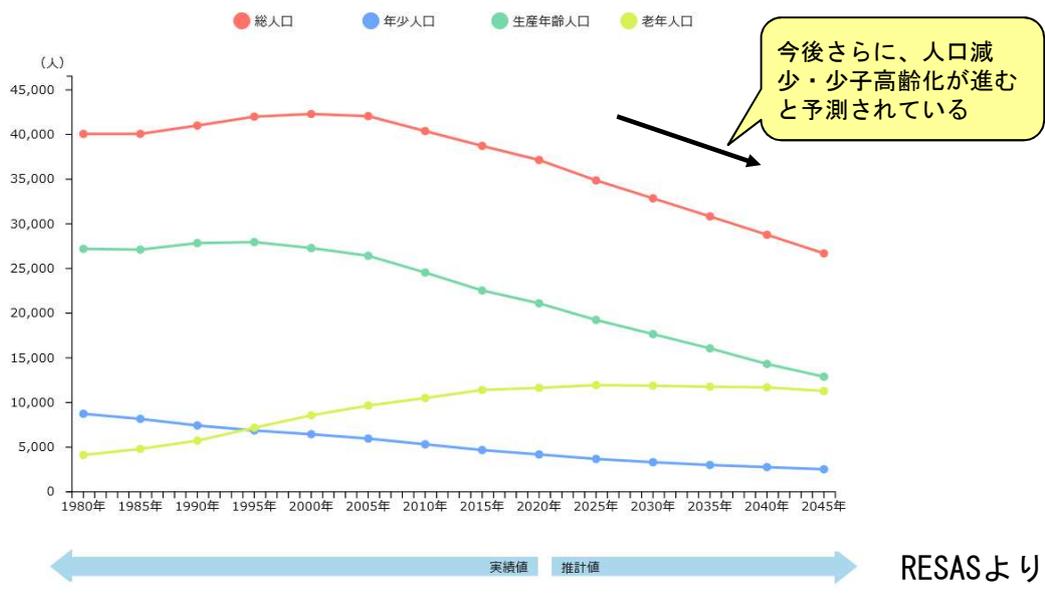
■特産物



■観光

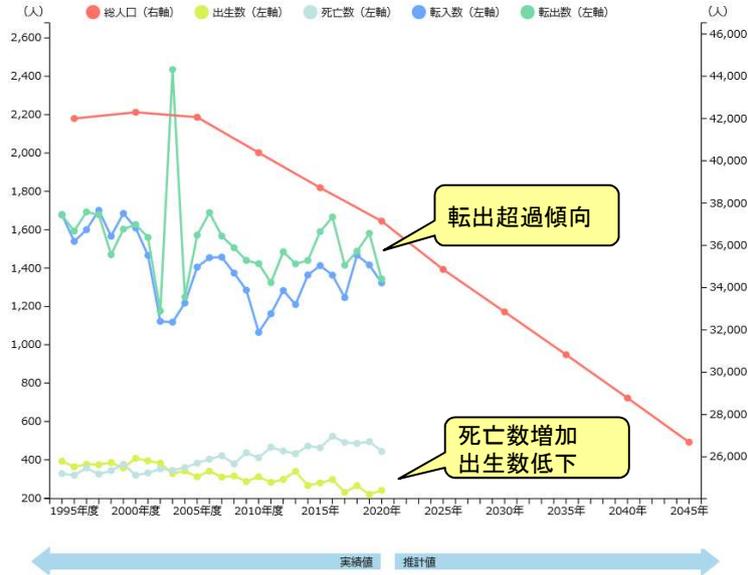


人口の推移と推計



瑞浪市のまちの現状

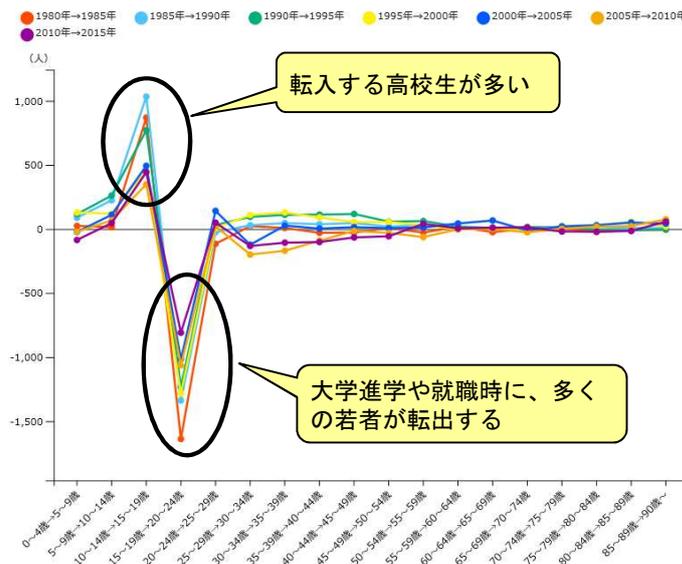
出生数・死亡数/転入数・転出数



RESASより

瑞浪市のまちの現状

人口の社会増減における
年齢階級別純移動数の時系列分析



RESASより

瑞浪市の人口動態のまとめ

- ・平成7年から令和2年にかけて瑞浪市の人口は**4,853人減少**。
- ・少子高齢化が加速しており、平成7年から令和2年にかけて0～14歳の人口は、**2,681人減少**、15～64歳の人口は**6,855人減少**、65歳以上の人口は**4,464人増加**。
- ・自然動態は、死亡数が出生数を上回る結果。
- ・社会動態は、平成28年に**295人減**であったが、令和2年では、**20人減**にとどまっています。
- ・市内に高校3校、大学1校があるため、10代後半の転入が多い。
- ・大学進学や就職のための転出が多いが、その後の社会増減は少ない。

駅南商店街の変化の様子

以前の様子
(昭和50年代)



現在



駅利用の人の流れはあるものの、周辺商店街等の利用者はほとんどない状態

瑞浪駅周辺まちづくりについて

- 現在瑞浪市では、人口減少が進む中でも、かつての賑わいを取り戻し、さらに魅力あるまちとするため、JR瑞浪駅周辺のまちづくりを行っています。

【まちづくりコンセプト】

未来の子どもたちに渡せるまち

【実施事業】

- ・ 南地区では、市街地再開発事業による住居と商業施設の整備
- ・ 北地区では、図書館を中心とした滞在サロン型の居心地の良い複合公共施設
- ・ 周辺地区でのリノベーション推進
- ・ キッチンカーやマルシェ等、賑わいづくりのソフト事業 など

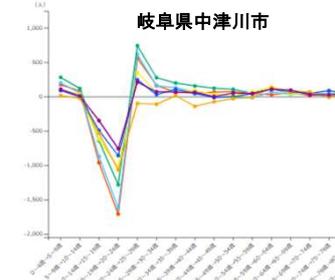
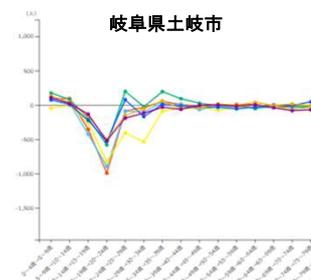
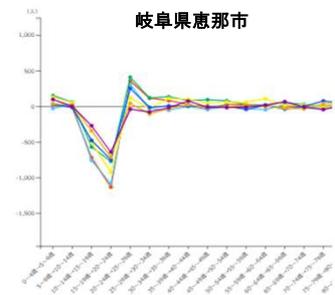
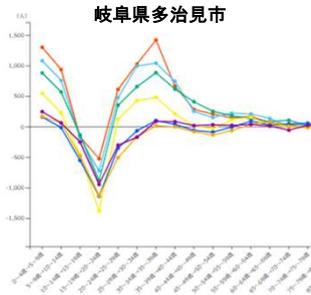
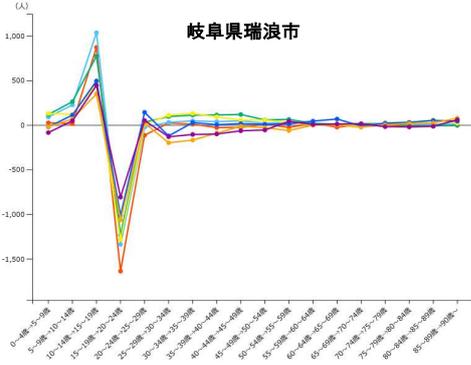
**⇒今回の政策立案では、上記の施策と連携し、
より魅力あるまちとなるような施策を提案する**

RESASを活用した他市との比較による 瑞浪市の分析

RESASを活用した他市との比較による瑞浪市の分析

人口の社会増減における
年齢階級別純移動数の時系列分析
【近隣市との比較】

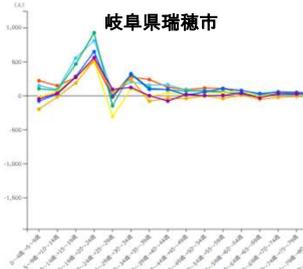
● 1980年→1985年 ● 1985年→1990年 ● 1990年→1995年 ● 1995年→2000年 ● 2000年→2005年 ● 2005年→2010年
● 2010年→2015年



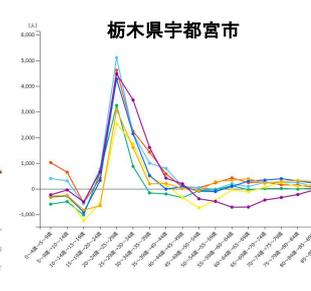
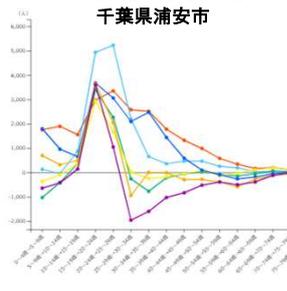
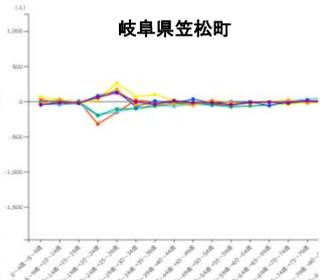
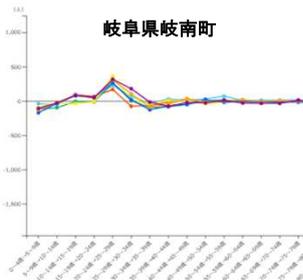
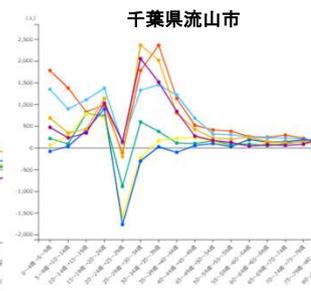
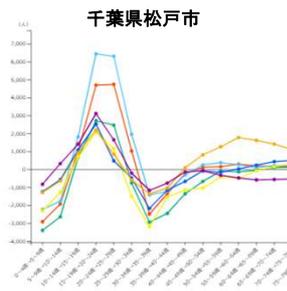
RESASを活用した他市との比較による瑞浪市の分析

人口の社会増減における
年齢階級別純移動数の時系列分析
【特徴的な他市との比較】

● 1980年→1985年 ● 1985年→1990年 ● 1990年→1995年 ● 1995年→2000年 ● 2000年→2005年 ● 2005年→2010年
● 2010年→2015年

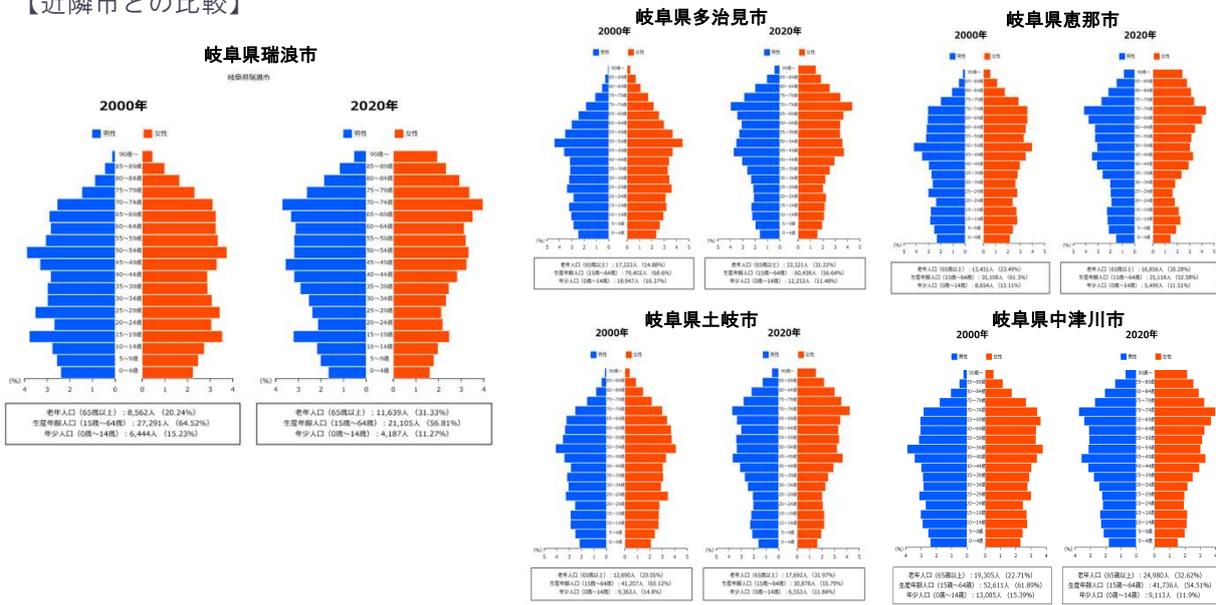


瑞浪市と異なり、20代～30代の転入が増加となっている



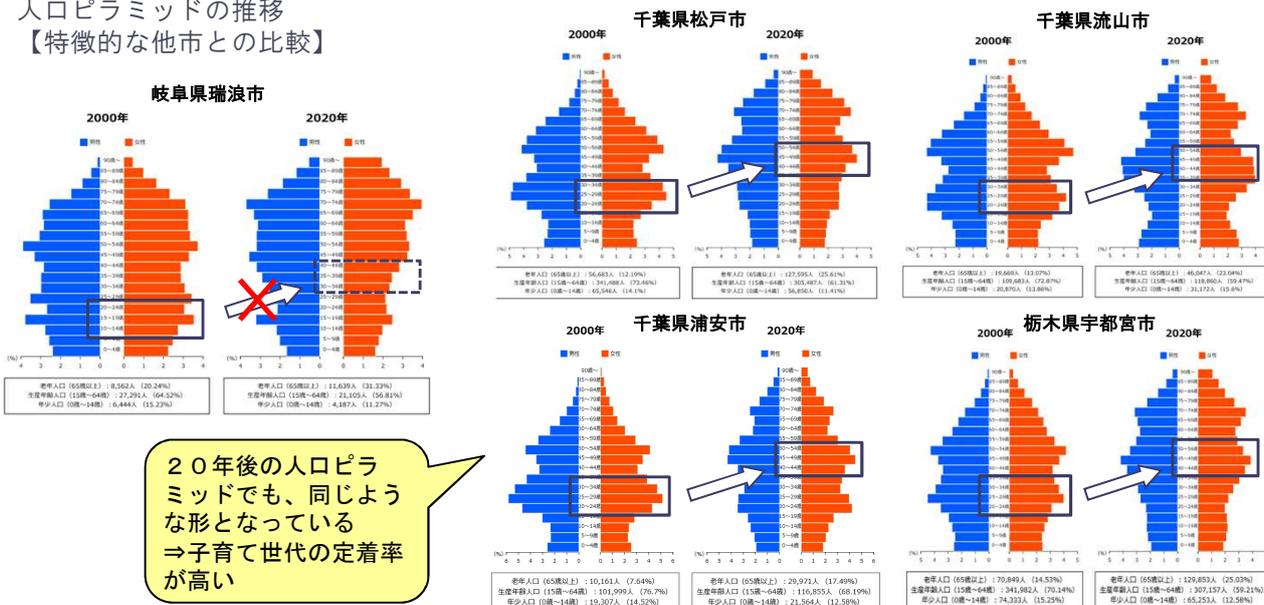
RESASを活用した他市との比較による瑞浪市の分析

人口ピラミッドの推移 【近隣市との比較】



RESASを活用した他市との比較による瑞浪市の分析

人口ピラミッドの推移 【特徴的な他市との比較】



【参考】子育てしやすい街ランキング

ある民間調査の結果では・・・

転入が多く、転出が少ない都市は「子育てしやすい街」である傾向がある

順位	自治体名	順位	自治体名
1位	松戸市（千葉県）	11位	荒川区（東京都）
2位	宇都宮市（栃木県）	11位	板橋区（東京都）
3位	浦安市（千葉県）	13位	大和市（神奈川県）
3位	富山市（富山県）	14位	豊橋市（愛知県）
5位	厚木市（神奈川県）	15位	豊田市（愛知県）
5位	北九州市（福岡県）	15位	流山市（千葉県）
5位	福生市（東京都）	17位	静岡市（静岡県）
8位	青梅市（東京都）	17位	豊島区（東京都）
8位	大分市（大分県）	17位	奈良市（奈良県）
8位	堺市（大阪府）	17位	新潟市（新潟県）

政策立案のテーマ設定

RESASによる人口動態の分析結果と、今後の社会ニーズや有識者の意見をもとに、若年層の流入（Uターン・Iターン）を増加させ、定着させるための政策立案のテーマを設定します。

瑞浪駅周辺のまちづくり

×

女性が働きながら子育てしやすいまち

子育てに関する市民ニーズの把握 ～市民アンケート等から～

市民ニーズの把握

市民ニーズの把握のため、以下の調査結果を分析

①「市民アンケート」

・調査目的

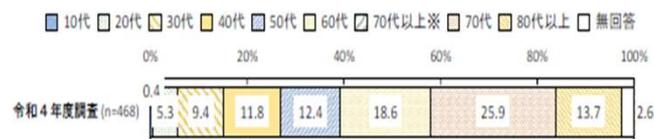
『第6次瑞浪市総合計画（H26～R5）』において、まちづくりの進捗状況を数値で測るための「指標」を設けており、毎年その現状値を把握し、今後の施策の基礎資料とすることを目的として実施。

・調査対象

市内在住の18歳以上の市民から無作為抽出した1,000人

・回答率

令和4年度：46.8%



②「子育て支援に関するアンケート」

① 瑞浪市子ども・子育て支援事業に関するニーズ調査

①-1 調査実施の概要

No.	項目	内容
1	調査目的	第2期瑞浪市子ども子育て支援事業計画策定の基礎資料とする。
2	調査地域	瑞浪市全域
3	調査方法	郵送配布・郵送回収
4	調査対象	2,000世帯（未就学児：1,000世帯＋小学生：1,000世帯）を無作為抽出 ※前回調査と同じ
5	調査期間	平成31年2月
6	回答者	子どもの保護者
7	回収状況	未就学児：47.5%、小学生：43.4%、全体：45.5%



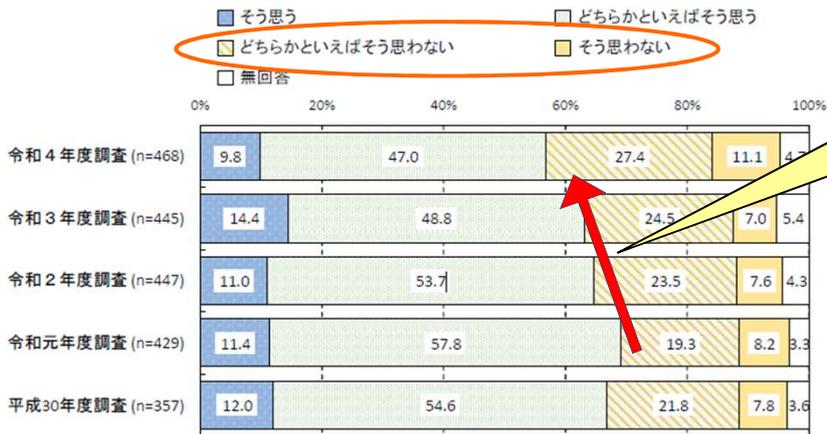
市民ニーズの把握

①市民アンケート結果

(2) 瑞浪市は、子どもを産み育てやすいまちだと思いますか

【経年比較】

令和3年度調査と比較すると、“そう思う”が6.4ポイント減少し、“そう思わない”が7.0ポイント増加しています。

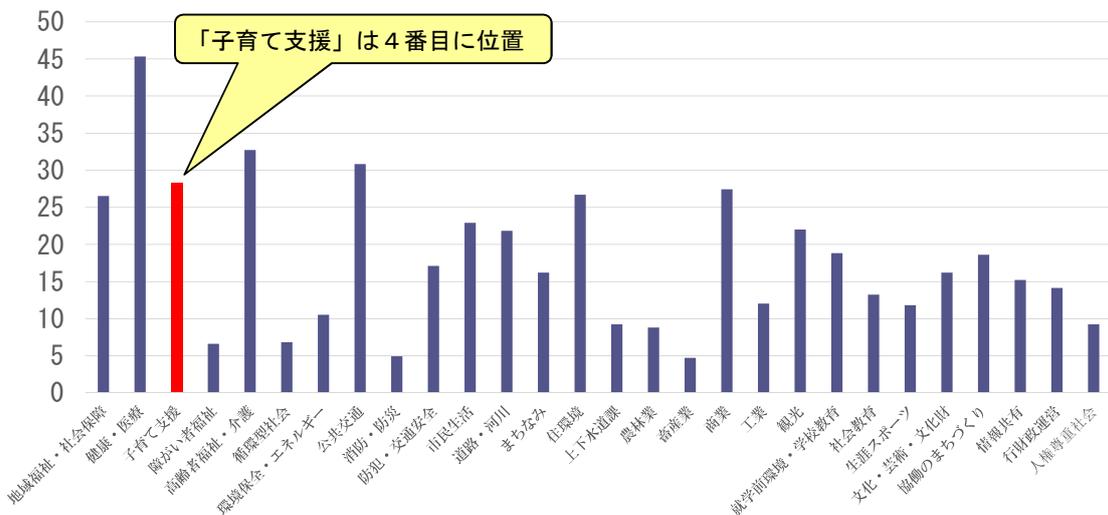


「そう思わない」人が年々増加傾向にある

市民ニーズの把握

①市民アンケート結果

設問：瑞浪市民の幸福感を高めるために、瑞浪市が特に重点的に実施すべき事業は何だと思いますか。



「子育て支援」は4番目に位置

市民ニーズの把握

①市民アンケート結果

設問：瑞浪市民の幸福感を高めるために、瑞浪市が特に重点的に実施すべき事業は何だと思いますか。

【年代別】

区分	地域福祉・社会保障	健康・医療	子育て支援	障がい者福祉	高齢者福祉・介護	循環型社会	環境保全・エネルギー	公共交通	消防・防災	防犯・交通安全	市民生活	道路・河川	単位：%	
													まちなみ	住
10代 (n=2)	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0
20代 (n=25)	20.0	24.0	60.0	8.0	20.0	4.0	8.0	32.0	0.0	32.0	20.0	16.0	20.0	20.0
30代 (n=44)	27.3	40.9	59.1	9.1	13.6	4.5	2.3	22.7	11.4	27.3	20.5	36.4	34.1	15.9
40代 (n=55)	20.0	52.7	49.1	5.5	23.6	7.3	9.1	34.5	5.5	25.5	23.6	18.2	18.2	30.9
50代 (n=58)	36.2	51.7	25.9	12.1	29.3	17.2	6.9	32.8	3.4	13.8	29.3	17.2	17.2	32.8
60代 (n=87)	34.5	57.5	27.6	5.7	42.5	4.6	8.0	33.3	10.3	14.9	19.5	27.6	14.9	23.0
70代 (n=121)	24.8	42.1	10.7	4.1	33.9	5.8	19.8	28.9	0.8	11.6	26.4	15.7	9.9	33.1
80代以上 (n=64)	21.9	35.9	10.9	6.3	45.3	4.7	7.8	34.4	3.1	15.6	15.6	25.0	10.9	21.9

特に30代以下の回答では「子育て支援」が最上位

市民ニーズの把握

②子育て支援に関するアンケート結果

設問：一時預かりに関する項目

【未就学児の親の回答】

問24 宛名のお子さんについて、私用、親の通院、不定期の就労等の目的で、年間何日くらい事業を利用する必要があると思いますか。利用希望の有無について当てはまる番号・記号すべてに○をつけ、必要な日数を()内に数字でご記入ください。(利用したい日数の合計と、目的別の内訳の日数を()内に数字でご記入ください。)なお事業の利用にあたっては、一定の利用料がかかります。

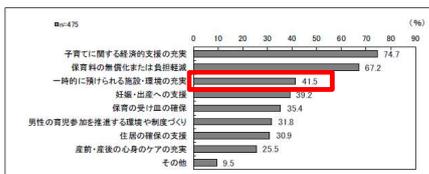
・利用希望

「利用する必要はない」(60.8%)、「利用したい」(32.4%)となっている。



問32 どのような支援があれば、子どもをもう一人産み育てたいと思いますか。当てはまる番号すべてに○をつけてください。

「子育てに関する経済的支援の充実」(74.7%)、「保育料の無償化または負担軽減」(67.2%)、「一時的に預けられる施設・環境の充実」(41.5%)、「妊娠・出産への支援」(39.2%)、「保育の受け皿の確保」(35.4%)、「男性の育児参加を推進する環境や制度づくり」(31.8%)、「住居の確保の支援」(30.9%)、「産前・産後の心身のケアの充実」(25.5%)、「その他」(9.5%)となっている。



私用や通院、就労時の一時的な預かりの需要がある。特に未就学児の親に多い傾向。

【小学生の親の回答】

問15 宛名のお子さんについて、私用、親の通院、不定期の就労等の目的で、年間何日くらい事業を利用する必要があると思いますか。利用希望の有無について当てはまる番号・記号すべてに○をつけ、必要な日数を()内に数字でご記入ください。(利用したい日数の合計と、目的別の内訳の日数を()内に数字でご記入ください。)なお事業の利用にあたっては、一定の利用料がかかります。

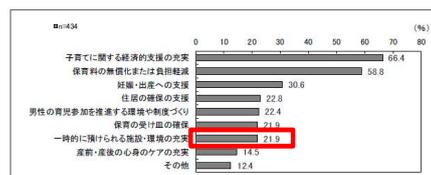
・利用希望

「利用する必要はない」(85.9%)、「利用したい」(9.0%)となっている。



問26 どのような支援があれば、子どもをもう一人産み育てたいと思いますか。当てはまる番号すべてに○をつけてください。

「子育てに関する経済的支援の充実」(66.4%)、「保育料の無償化または負担軽減」(58.8%)、「妊娠・出産への支援」(30.6%)、「住居の確保の支援」(22.8%)、「男性の育児参加を推進する環境や制度づくり」(22.4%)、「保育の受け皿の確保」(21.4%)、「一時的に預けられる施設・環境の充実」(同率21.9%)、「産前・産後の心身のケアの充実」(14.5%)、「その他」(12.4%)となっている。



市民ニーズの把握

(一時預かりに関して)
瑞浪市ファミリーサポートセンターの現状

	H30	H31	R2	R3	R4 (～9月)
提供会員数	33	19	14	11	13
実利用者数	6	1	3	6	5
依頼会員数	260	217	149	147	145
利用回数	14	3	8	19	28



提供会員と依頼会員の比率

提供会員数1人当たりの依頼会員数

【瑞浪市：11.2人】

【全国平均：3.6人】



ファミリーサポートセンターに求める声・課題

- ・サポーターが少なく、マッチングが困難
 - ・提供会員の家か依頼会員の家での預かりに抵抗がある
 - ・他人に預けるのが不安
 - ・料金が高い
 - ・周りで利用している人がいない
- ※アンケート及びヒアリングより

子育て世帯の困っている人の事例

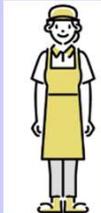


A子さん

- ・38歳
- ・出身 三重県
- ・職業 保険営業

- ・勤務形態 : フルタイム
- ・家族構成 : 夫、(長男) 小学6年生 (長女) 年長
- ・趣味 : 読書、カフェ

・休日に急な仕事が入ったが、仕事に行けなかった。
・長男の参観があったが、長女の面倒を見る人がおらず、参観に行けなかった。



B子さん

- ・28歳
- ・出身 岐阜県
- ・職業 製造業

- ・勤務形態 : パート
- ・家族構成 : 夫、(長男) 年中 (次男) 3歳児
- ・趣味 : ヨガ、エステ

・リフレッシュしたいが、子育てに追われて、自分の時間がない。
・新居の打ち合わせのため、子どもを連れてきたが、はかどらなかつた。

政策提案

政策提案

これまでの分析結果をもとに、SWOT分析を実施

強み	弱み
<ul style="list-style-type: none"> ・JR中央線の駅があること ・日用品が買える場所が充実している（スーパー、家電量販店等） ・保育園の入園待機児童ゼロ ・名古屋市内が通勤圏内であること ・観光資源として宿場（大湫宿など）があり外国人観光客にPRできる ・駅周辺に400台の駐車スペースがある。 ・高校3校大学1校がある。 ・多治見-中津川において中間地点にある ・駅乗客数が約4,500人いる ・1万人の来場者がくぐるイベントが駅前で開催できる ・ゴルフ場が多く、他の観光地と比べると来訪者が多い ・製造業（窯業、土石製品、食料品、化学工業）が盛ん ・住みよさランキング2022で東濃5市ではトップの301位（多治見483位、土岐市517位、恵那市363位、中津川市389位） ・区画整理などによる市街地整備が行われ良好なまちなみが整備されている ・公園の遊具が新しい ・自然の中で遊べる ・バサラが人気 ・地価が安い ・駅北地区に複合公共施設を整備 ・他市間通勤通学の人口移動が多い ・住みやすい割合半数以上、住み続けたい割合8割弱 	<ul style="list-style-type: none"> ・娯楽施設が少ない （若者が行きたくならないような飲食店（カフェ等）がない） ・休日保育サービスが充実していない ・観光資源が少ない、あるとしてもPRできていない ・駅周辺に夜遅くまで営業している店が少ない ・駅周辺の飲食店が少ない ・空き店舗が目立つ ・滞在できる場所（商業施設）が少ない ・利用しやすい公共交通が整っていない ・若者や女性が魅力的な仕事が少ない ・ファミリーサポート等の子育て支援策が認知・利用されていない ・希望の保育園に入れにくいことがある ・生活に必要なサービス（日用品、衣類、飲食チェーン）が少ない ・19号周辺に商業施設が多く、駅周辺にまとめて買い物できる場所がない ・手土産などに購入できる市の特産物が少ない ・情報発信力が弱い ・習い事が少ない

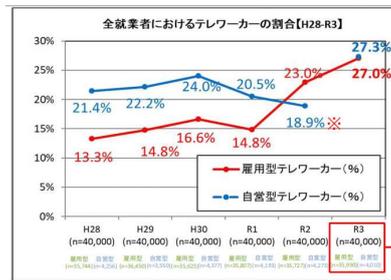
政策提案

機 会	脅 威
<ul style="list-style-type: none"> ・リニア中央新幹線の開通 ・瑞浪恵那道路の開設 ・釜戸に道の駅が作られる ・企業において首都圏からの地方への転出が増加傾向にある ・バーベキュー場がぎなあたに整備される ・名古屋が通勤圏内 ・Mビルや多びす屋、Mキッチンカーが展開している ・テレワークの広がり※ ・障がい者施設が増加している ・高校と大学がある ・八百津と瑞浪市をつなぐ橋の開通 ・子どもの一時預かりのニーズ 	<ul style="list-style-type: none"> ・土岐市に大型ショッピングセンターができる ・リニア中央新幹線の開設 ・少子高齢化 ・川が近く氾濫の可能性がある ・40代が瑞浪市に住み続けたいと思う人が少なくなる ・20代の転出が多い ・コロナの影響により、昔からあるお店が閉店している ・コロナ禍による幼稚園の休園などで出勤できなくなることが多い

※テレワークの広がり
「令和3年度テレワーク人口実態調査（国交省）」

2-1. テレワーカーの割合【平成28～令和3年度の推移】

○雇用型テレワーカーの割合は27.0%で、前年度から4.0ポイント増加し、最高値を更新。
○自営型テレワーカーの割合は27.3%（※）となっている。



政策提案

「強み」と「機会」を掛け合わせ

強 み



保育科在学学生：約100名

強 み



駅北地区の複合公共施設整備
(閲覧席やキッズスペースの充実)
(多目的ホールや貸室の充実)

機 会

子どもの一時預かりニーズ
(テレワークの広がり)

市内大学との連携と複合公共施設の活用による ファミリーサポートセンター制度の充実



①提供会員の拡充



②新施設の利活用



③マッチングアプリ の導入

瑞浪駅周辺の
まちづくり
女性が働きながら
子育てしやすいまち

政策提案

市内大学との連携と複合公共施設の活用による ファミリーサポートセンター制度の充実

【具体内容①】

中京学院大学の学生100人に提供会員になってもらう！

【効果①】

- 提供会員の増加により、預けることが出来る機会や時間の増加
- 子どもの過ごし方の多様化（読み聞かせ、宿題、運動など）
- 大学との連携による、保育の質の確保や利用者の安心感

市内大学との連携と複合公共施設の活用による ファミリーサポートセンター制度の充実

【具体内容②】

駅北複合公共施設のキッズスペースや多目的ホールの活用！

【効果②】

- ・公共の場であり、提供会員・利用会員共に安心して使える
- ・駅直結施設であり、車のない学生でも集まり易い
- ・駐車場も充実しており、車でも集まり易い
- ・テレワーク可能な設備（各種閲覧室、wifiなど）があり、子どもを預けて仕事ができる

市内大学との連携と複合公共施設の活用による ファミリーサポートセンター制度の充実

【具体内容③】

提供会員・利用会員のマッチングアプリの導入！

【効果③】

- ・マッチングをスムーズにし利用しやすさの向上
- ・突発的なニーズに対しても対応できる可能性が高まる
- ・お互いの経歴や特徴、得意分野等を登録することで、どんな人なのか事前にわかる

施策の有用性の検証

- 「令和2年度 全国ファミリー・サポート・センター活動実態調査」(一般財団法人女性労働協会)の調査によると、全国的な平均は、提供会員1人に対し、利用会員3.6人の体制となっている。

施策の実現 ⇨ 瑞浪市は提供会員1人に対し利用会員1.3人となる



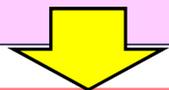
- 「子育て援助活動支援事業(ファミリー・サポート・センター事業)における提供会員の確保方策等の取組事例に関する調査研究報告書」(一般財団法人女性労働協会)の調査によると、ファミサポ事業に「満足していない」理由の1位は「急な対応ができない」である。

施策の実現 ⇨ マatchingアプリによる急な依頼にも対応

具体的な施策の効果

A子さん

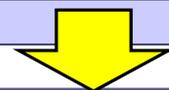
- ・休日に急な仕事が入ったが、仕事にいけなかった。
- ・長男の参観があったが、長女の面倒を見る人がおらず、参観に行けなかった。



- ・急な仕事が入った際も直ぐにマッチングが行え、スムーズに仕事に対応できた!
- ・長男の参観や懇談も時間を気にせず、参加できた!

B子さん

- ・リフレッシュしたいが、子育てに追われて、自分の時間がない。
- ・新居の打ち合わせのため、子どもを連れてきたが、はかどらなかった。



- ・趣味や習い事の時間ができ、育児ストレスが軽減された!
- ・打ち合わせがスムーズに行え、設計やデザインの検討が十分に行えた!

施策の二次的効果

- 公共の場を活用することで、ファミサポ活動が見えるようになり、制度の周知につながる。利用会員・提供会員の増加が期待できる。
- 学生にとっては、実際に子どもの世話をすることによる経験の獲得（授業の一環となり得るか？）。
- 駅直結施設でのサービス提供のため、市外からの利用者も期待できる。
- 一時預かりが発展し、施設内での子ども向け習い事や市民活動の増加。
- 図書館の読み聞かせボランティアが提供会員になる可能性もある。
- 駅北施設に人が訪れる機会が増え、駅周辺のまちの賑わいにつながる。

想定される課題

- マッチングが上手くいくか（突発的な利用やサポートニーズへの対応等）
- 利用会員及び提供会員が駅北施設までくる移動の手間
- 提供会員は有償ボランティアの位置付けであり、報酬は多くないため、学生が参加してくれるか

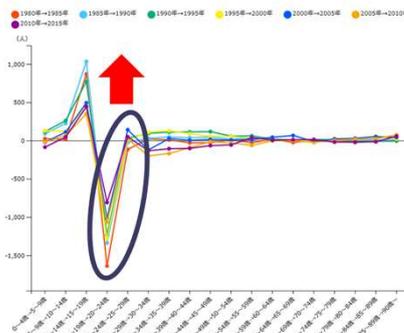
更なる子育て支援の充実に向けて

- 駅周辺にスーパーや総菜やクリーニング屋などの家事負担が軽減できるような商店の誘致
- 送迎ニーズ（送迎時間の短縮）への対応
- テレワークができる職種の人へのアピール
- 駅北施設での子ども向けだけでなく、親向けの習い事の実施
- 施策についてのPR強化

施策評価の指標（KPIの項目）

施策評価の指標として以下のような項目が想定される

- 利用会員、提供会員数（増加）
- 利用回数（増加）
- 市民アンケート関連項目ポイント（上昇）
- 子育て世代の流入



ご清聴ありがとうございました